

地域課題と子ども・若者のウェルビーイング

島根大学法文学部 宮本 恭子

【背景・目的】

国連児童基金（ユニセフ）は、2020年9月、先進・新興国38カ国に住む子どもの幸福度を調査した報告書を公表した。日本の総合順位は38カ国中20位であった。日本の子ども・若者の幸福度は、幸福度調査「世界ワースト2位」である。ここで「幸福度」とは、原文で使われていた「ウェルビーイング」を日本語に翻訳した際に「幸福度」という言葉になった。ウェルビーイングとは、子どもの生活水準や心身の健康など、子どもの状況全体を表している。経済的、社会的、そして精神的にも充足した良好な状態のこととされ、幸福度や満足度を含めて使われることが多い。国内総生産（GDP）だけでは計測できない経済社会の進歩と発展を把握する試みとして「ウェルビーイング指標」が注目されている。国連の報告書は、ウェルビーイング指標を政策のモニタリングや優先順位付け、政策立案で活用する国がいくつかあることを紹介している。日本でも政策運営面でのウェルビーイング指標を参照する重要性が増している。本報告は、子ども・若者の幸福度（wellbeing）を形作るものは何か、という問題意識について、子ども・若者を取り巻く地域課題について着目し、考察することを目的とした。

【研究方法】

令和元年9月、島根県が実施した「島根県子どもの生活実態調査」のデータを用いて、子どもと保護者の生活に関する意識について二次分析を行った。調査対象は、島根県内の学校に進学している小学5年生、中学2年生、高校2年生とその保護者である。質問項目の「自由記述」を分析対象とし、共起ネットワーク分析を用いて、「自由記述」で書かれていることを可視化した。子どもの質問は「あなたが毎日の生活の中で、こうなったらいいなと思っていることがあれば、書いてください。」で、小学生1938人 中学生1689人 高校生1124人が回答した。保護者の質問は、「すべての子どもが夢と希望を持って成長していける社会とするためにはどうしたら良いか」では、小学生2113人 中学生1662人 高校生1538人が回答した。次に、「あなたが、今、困っていることや悩んでいることがありましたら、ご自由にお書きください。」では、小学生1306人 中学生1164人 高校1033人が回答した。

【結果】

保護者の自由記述から、高等教育進学における私的負担の大きさが明かになった。小学生、中学生、高校生の保護者は、教育費や医療費の無償化などの経済的支援策を望んでいる。高校生以降の支援策は少なく、家計への負担は大きい。特に高校生の保護者は、高等教育進学における私費負担が大きいことへの経済的支援の要望が強い。つまり、所得に関わらず高等教育の無償化への要望が強い傾向が明かになった。

保護者が、今、困っていることや悩んでいることは、小学生と中学生では、一番の悩みは、毎日忙しくて子どもの勉強をみたり会話したりなどの時間がとりにくいことである。親に時間的な余裕がないことが明らかになった。高校生の保護者は、進学費用の悩みが大きくなる。

子どもたちが書いてくれた「毎日の生活のなかで、こうなったらいいな」の回答では、保護者と同様に、「時間の貧困」の問題が挙げられた。小学生と中学生では、「家族そろって食事をしたい」、「友だちと一緒に遊んだり、無料で勉強できる場所があればよい」という願いが強い。高校生は、「通学のための公共交通の利便性を良くしてほしい」、「静かに勉強できる場所がほしい」という願いが強い。勉強できる場所として、「図書館が近くにあったらいいな」という願いもみられる。

【考察】

小学生、中学生の世帯では、「時間の貧困」の問題の改善に向けて、ウェルビーイング指標の「生活の質」の『仕事と生活のバランス』を強化すべきである。高校生以降では、大学進学の費用負担の大きさや、公的支援制度の少なさを理由に、世帯の経済的困窮度が増しているため、公的支援を充実する必要がある。また、地域の「公共交通のあり方」が『高校生の通学の負担』や『勉強時間の確保の問題』、『親の送迎の負担の問題』など、福祉、教育と大きく関連していることが示唆される。子どもや保護者を含めたウェルビーイング向上のためには、福祉や教育、地域課題を関連づけながら強化すべき施策を検討することが重要である。

【キーワード：子ども・若者，ウェルビーイング，時間の貧困，通学の不便，地域課題】